

セミナー全記録

(注：敬称略、所属・機関名は当時のものを記載)

ヒューマンインパクトセミナー

◆1年目：2002年度(平成14年度)

オーガナイザー：谷内茂雄（総合地球環境学研究所）、永田俊・山村則男・三木健（京都大学生態学研究センター）

第1回 2002年6月14日

三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館流域生態研究グループ）

「博物館と自然環境情報—自然史研究から地域生態系保全へ—」

第2回 2002年6月28日

佐藤 仁（東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻国際環境基盤学講座）

「タイの森林保全にみる政策と情報」

第3回 2002年7月26日

原 雄一（パシフィックコンサルタンツ株式会社水工技術本部流域情報部）

「コンサルタントにおける流域での諸問題検討の流れ—流域管理の実践的展開について—」

第4回 2002年9月27日

藤倉 良（立命館大学経済学部）

「生物多様性保全の意義—あらゆる人たちが理解できる説明の必要性—」

第5回 2002年10月11日

内藤正明（京都大学大学院工学研究科（環境地球工学）同大学院地球環境学堂学舎長（併任））

「持続可能な社会システム—自然共生型文明への転換？—」

第6回 2002年11月8日

大西正幸（名桜大学国際学部国際文化学科）

「『危機言語』の記録と継承に向けての取り組み—南ブーゲンヴィルのパプア系諸語を例に—」

第7回 **琵琶湖スペシャル** 2002年12月13日

戸田直弘（滋賀県守山漁協）

「漁業者の目から見た外来魚問題」

中井克樹（琵琶湖博物館）

「琵琶湖における侵害的外来魚の現状と対処—既存データでどこまで言えるのか？—」

第8回 2003年1月24日

内山純蔵（富山大学人文学部）

「永遠のトラブルメーカー？—長期的視点からの人間・環境系—」

◆2年目:2003年度(平成15年度)

オーガナイザー:谷内茂雄(総合地球環境学研究所)、永田俊・山村則男・三木健(京都大学生態学研究センター)

第9回 2003年5月9日

竹門康弘(京都大学防災研究所水資源研究センター)

「砂洲の生態系機能に関する研究」

第10回 2003年6月6日

中村浩二(金沢大学自然計測応用研究センター・理学部(兼務))

「里山・地域・大学—金沢大学「角間の里山自然学校」の試み—」

第11回 2003年11月28日

五十嵐敬喜(法政大学法学部)

「美しい都市」

第12回 2004年1月23日

横山俊夫(京都大学大学院三才学林・地球文明論)

「安定社会を生きる—前近代日本の経験から—」

第13回 2004年2月13日

小倉紀雄(東京農工大学)

「市民環境科学について考える—水環境保全に果す市民と専門家の役割—」

◆3年目:2004年度(平成16年度)

オーガナイザー:谷内茂雄・石井励一郎(総合地球環境学研究所)、永田俊・山村則男・三木健(京都大学生態学研究センター)

第14回 2004年9月16日

吉田昭彦(株式会社こめつつじ)

「治山・治水と河川水生生態系再生のあり方について」

第15回 2004年10月22日「琵琶湖は持続可能か？」シリーズ

嘉田由紀子(京都精華大学人文学部環境社会学科)

「水利用と湖岸の開発—環境社会学の立場から—」

野崎健太郎(相山女学園大学人間関係学部人間関係学科)

「琵琶湖北湖における植物プランクトンおよび底生藻群落の変遷」

第16回 2004年11月26日「琵琶湖は持続可能か？」シリーズ

須戸幹(滋賀県立大学環境科学部)

「農業活動が琵琶湖集水域の水質に与える影響、特に代かき濁水と農薬について」

濱端悦治(滋賀県琵琶湖研究所)

「琵琶湖岸における植物群落の変化とその要因」

第17回 2005年1月20日「琵琶湖は持続可能か？」シリーズ

渡邊紹裕（総合地球環境学研究所）

「琵琶湖集水域における近年の農業水利システムの展開」

遊磨正秀（京都大学生態学研究センター）

「淡水環境の変遷と淡水生物の応答—琵琶湖周辺を事例に—」

ヒューマンインパクトセミナー 座談会「琵琶湖が持続可能であるために」

2006年7月14日

司会進行：石井励一郎（地球環境フロンティア研究センター）

中西正己（京都大学名誉教授・総合地球環境学研究所名誉教授）

仁連孝昭（滋賀県立大学環境科学部）

和田英太郎（地球環境フロンティア研究センター）

谷内茂雄（総合地球環境学研究所）

ヒューマンインパクトセミナー・スペシャル(京都大学生態学研究センターセミナーと共催)

2004年10月28日

Stephen R. Carpenter (Center for Limnology, and Department of Zoology, University of Wisconsin-Madison, USA)

"Carbon Cycling in Lake Districts: Terrestrial Subsidies to Lakes"

京都大学生態学研究センター共同利用公募研究会「生態系デザイン方法論をめぐって」

2003年3月14日～15日

世話人：永田俊、企画：ヒューマンインパクトセミナー幹事（山村則男、永田俊、谷内茂雄、三木健）

谷内茂雄（総合地球環境学研究所） 「流域管理の方法論をめぐって」

菊澤喜八郎（京都大学大学院農学研究科） 「森林保全と生態学」

三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館） 「理論と実践のリンク—地図の上で展開する生態学—」

コメンテーター：原雄一（パシフィックコンサルタンツ株式会社）、竹門康弘（京都大学防災研究所）、柿澤宏昭（北海道大学大学院農学研究科）、武田博清（京都大学大学院農学研究科）、畑田彩（京都大学生態学研究センター）、内山純蔵（富山大学人文学部）、藤倉良（立命館大学経済学部）、松田裕之（東京大学海洋研究所）、中井克樹（滋賀県立琵琶湖博物館）

足下を鍛えるセミナー

司会：脇田健一（龍谷大学社会学部）

第1回 2002年11月29日

野波寛（関西学院大学社会学部）

「環境配慮行動に対する個人の意思決定過程から概観する社会構造変化の可能性」

第2回 2002年12月26日

今田美穂（総合地球環境学研究所）

「流れる水を使う井堰管理と協働性の変遷—湖北・天野川下流域における集落の比較分析から—」

第3回 2002年2月14日

山崎有恒（立命館大学文学部）

「明治期における水利・土木政策と、昭和・平成の河川行政におけるその影響」

第4回 2003年3月28日

首藤伸夫（岩手県立大学総合政策学部）

「極低頻度の巨大自然災害への備え」

第5回 2003年3月29日

長谷川計二（関西学院大学総合政策学部）

「社会的ジレンマと制度デザイン—コミュニティ・市場・国家—」

第6回 2004年11月12日

東善広（滋賀県琵琶湖研究所）

「情報システムと住民参加・参画—豊穡の郷 赤野井湾流域協議会の取組みを事例に—」

第7回 2004年12月10日

増田佳昭（滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科）

「農業排水問題の構造と対策—農業濁水問題研究会の取組みを中心に—」

第8回 2005年1月14日

宮本博司（国土交通省近畿地方整備局）

「淀川河川整備計画策定と洪水対応について」

第9回 2005年4月25日

柏尾珠紀（総合地球環境学研究所）

「土地改良事業導入における推進勢力構造と事業展開—旧三村の差異とキーパーソンを中心に—」